

ふるさとふちゅう

【第13回】西国街道を歩きませんか(8)

再発見

県道84号線を浜田から大田方面に進むと府中大川に出ます。これは馬木(広島市東区)から温品川を経た本流の府中大川、呉婆々宇山から発した御衣尾川・山田川を支流とする榎川、甲越付近の小川を集めた八幡川、経免の経免水路の4本が合流した川です。下流で猿猴川と合流して広島湾に流れ出ています。

西国街道としてこの川に架かるのが「府中大橋」です。この橋が架けられた時期は明確ではありませんが、東側の茂陰新開が完成したのが慶安元(1648)



府中大橋から上流を望む。

年で、西側の大須新開の土手が完成したのが万治3(1660)年です。この後に西国街道が整備され、橋も架けられたでしょう。この橋を「往還橋」と記した史料もあります。「中国行程記」では、この橋が「村境」と記されています。実際には、川の西側も大須新開など府中村ですが、街道筋ではここが村境という認識だったのでしょう。

府中大川は洪水が多く、橋も流され、改修や再建が繰り返されています。元文5(1740)年7月の『安芸郡府中村諸樋諸橋仕出帳』には「往還一板橋吉ヶ所 長三拾四間幅式間 但らんかん御座候」とあります。長さ34間ですから約61mです。現在の府中大橋が約52mなので、今より川幅が広く、橋も長かったようです。橋の幅は約3・6mで細長く、欄干が付いた立派な板橋でした。当時の橋の管理者には橋守給5斗が支給されています。平成8(1

996)年に茂陰の中村静登さんがまとめた『もかげのあゆみ』には『事蹟緒鑑』という史料をもとに寛保3(1743)年2月15日に「府中村往還板橋」が破損し架け替え、以前の「土橋」としたとあります。府中村の往還橋は土橋↓板橋↓土橋と変遷したということです。文化2(1803)年に記された大田南畝の『小春紀行』では「土橋の長き川をわたり、田間をゆく」とあります。以後、地元では土橋の呼称が定着します。

大正15(1926)年の大洪水では橋が壊れ、昭和2(1927)年にコンクリート製になりました。名称も当時の府中中学校長の菅原守氏により府中大橋と命名されました。その後、昭和41(1966)年の拡幅を経て、昭和50(1975)年の新幹線開通に伴い下流側に現在の橋が架けられました。

府中町文化財保護審議会委員 菅 信博

健康に役立つ
情報を紹介



岡健康推進課 ☎286-3257

できることから始める健康習慣 毎日プラス10分、体を動かそう!

テレワークやWeb会議など、働き方が大きく変わる中、体を動かす機会も減りがちです。健康維持のため、自分のライフスタイルにあわせて、毎日「+10分」体を動かしてみませんか。

●生活の中でのプラス10分 (+10)

- ・移動時のはや歩き
- ・料理や掃除
- ・庭いじり など



●仕事の中のプラス10分 (+10)

- ・30分に1回は体を動かす(3分を目安に)



●まずは身体のセルフチェック♪

- ・スポーツ庁「セルフチェック」動画
室伏長官が考案・実演する
身体診断(右のQRコードから)

